

<b>Title</b>	アウトプットを促進させる高学年でのスキット活動 : 荒川区ワールドスクールでの取り組み
<b>Author(s)</b>	東仁美
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢, 21(2): 155-169
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=927">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=927</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

## アウトプットを促進させる高学年でのスキット活動

— 荒川区ワールドスクールでの取り組み —

東 仁 美

Promoting Output in English through Skit Activities

The Arakawa World School Project

Hitomi HIGASHI

The Arakawa World School Project is headed by the Arakawa Ward Board of Education and is a part of the students' education. It is a five-day summer camp for sixth graders held in Kiyosato, Yamanashi Prefecture. About 150 students attend the program every year. The objective of the program is not only to improve English, but also to encourage children to foster good social relations and learn practical skills. As a program coordinator, I have been involved in developing this project for the past three years.

After reviewing the World School Project, this paper will examine the situational syllabus to see if it is effective in promoting speaking in natural contexts and discuss how to offer authentic situations in English conversation at the elementary school level.

---

**Key words:** Elementary school English activities, situational syllabus, skit

### 1. はじめに

東京都荒川区は2003年に構造改革特別特区（教育特区）に認定され、小学校英語教育を導入した。2004年度から小学校の教育課程に英語科を設定し、区内全ての小学校（28校）で第1学年から第6学年まで週1回の英語の授業が行われている。これは、子どものコミュニケーションへの関心・意欲・態度の育成を重視し、身近な日常英会話につながる活動を通して、英語で世界の人々と交流することができる子どもの育成を目指したものである。同区では、小学校英語教育の充実を期するため、2004年度から高学年を対象として、四泊五日の「荒川区ワールドスクール」を夏休みに開催している。

## アウトプットを促進させる高学年でのスキット活動

清里高原の自然の中で行われるこの英語キャンプは、外国人講師（AET）<sup>注1</sup>と生活を共にする中で、児童が授業で学んだ英語を実際に使用し、英語への興味・関心を一層高めることを目的としている。本稿では、このワールドスクールの内容及び成果を報告することにより、2011年から必修化される外国語活動が目指している小学校段階での国際コミュニケーション能力の育成について考察したい。

## 2. 小学校英語活動の現状

2002年度に改訂された現行の学習指導要領において、小学校第3学年から「総合的な学習の時間」が創設された。学習指導要領の総則「第3 総合的な学習の時間の取扱い」によると、週3時間設定されたこの時間においては、「生きる力」を培うことをねらいとし、「地域や学校、子どもの実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行なうものとする」とされている。

2008年3月に新学習指導要領が告示され、小学校第5学年及び第6学年に「外国語活動」が新設された。新学習指導要領は、2009年度から2010年度の二年間の移行措置期間を経て、2011年から完全実施となる。週1回程度の必修となる外国語活動の補助教材として、文部科学省は英語ノート（試作版）を開発し、2008年度から全国614校の拠点校で試行的に使われている。英語ノートは、2009年度に全国の小学校の5・6年生及びその担任に配布される予定である。完全実施まで全国の小学校で必修化の外国語活動（原則として英語活動）の準備を進めることになるが、2007年度の文部科学省英語活動実施状況調査によると、97.1%の学校で何らかの形での英語活動が行われている。

## 3. 英語教育特区

### 3.1 構造改革特別区域（特区）

教育の地方分権化が進む中、小学校段階での英語教育においても教育の規制緩和が加速化されてきた。2002年、小泉構造改革内閣の施策の一つとして、地域を限定して規制を緩和する構造改革特区を作る構想が発表され、翌2003年には「構造改革特別区域法」が公布された。教育特区の認定と共に構造改革特別区域研究開発学校が制度化され、地域の特色を生かし、学習指導要領によらない特別の教育課程を編成することが可能となった。

内閣官房構造開発特区推進室の資料によると、構造改革特区には、教育分野以外にも国際物流特区、農村活性化特区、国際交流特区、まちづくり特区、新エネルギー・リサイクル特区などが例として挙げられている。構造改革特区認定は、「特定の地域に限って自発性を尊重して規制を緩やかにし、そこでの成功例を全国に波及させて経済を活性化させようというのがそもそものねらい」（松

川, 2004)であったが, 初期の認定は, 小学校英語関係の教育特区の提案が目立っており, 2005年度までの三年間で51件が認可されている。<sup>注2</sup>

2006年3月に中央教育審議会教育課程部会の分科会「外国語専門部会」から高学年での英語活動必修化の提言がなされたこともあり, その後2006~2008年度の認可は7件にとどまっている。英語教育特区として第一回の特区認定を受けたのは, 荒川区のほか, 群馬県太田市, 埼玉県狭山市, 新座市, 戸田市, 千葉県成田市などがある。

### 3.2 英語教育特区としての荒川区の取り組み

荒川区は, 小中一貫の英語教育を実施し, 区内の児童・生徒のコミュニケーション能力を育成していくことを目指し, 「国際都市『あらかわ』の形成特区」として認可を受けた。2003年度には, 荒川区では区内二校の推進校(第三日暮里小学校, 第六日暮里小学校)で英語活動が先行実施され, 翌2004年度からは, 区内28校全ての小学校で第1学年から第6学年まで週1回の英語の授業を実施することになった。区独自に英語教育アドバイザー及びAETを配置し, 「荒川区小学校英語科指導指針」及び「解説書」を作成したほか, 全教員参加による研修を実施するなど, 積極的な支援が行なわれている。

### 3.3 英語教育導入の問題点

英語教育特区の導入が, 教育委員会主導で進められ, また, 英語も学級担任が中心となって授業を行なうなどの方針が示されたため, 導入当初は, 保護者や教員らが中心となり, 区議会に実施の延期を求める陳情書が提出された(市村, 2004)。陳情の中では, 特に学級担任が中心で行なう英語の授業に対して人材配置の問題が指摘された。瀧口(2006)は, 荒川区の英語教育導入に関して, ALTの活用方法, 教材の問題, 保護者や教員との相互理解などの点で厳しい分析をしているが, 特区2年目以降の取り組みについては, 現場の意向を尊重した取り組みを進めており, 教育行政がどうあるべきかを示しているとして, 一定の評価をしている。

次章では, 英語教育導入で課題を残した荒川区教育委員会が2004年度から導入したワールドスクールで, いかにALTを活用し, 教材内容を工夫し, 保護者や教員とのコミュニケーションを重視してきたかを考察していきたい。また, ワールドスクールは, 6年生児童対象の英語キャンプであるが, 教育委員会が小学校, 中学校の教員を引率者として動員することにより, 教員研修としても位置づけてきた経緯についても報告する。

## 4. 荒川区ワールドスクール

### 4.1 荒川区ワールドスクールの概要

ワールドスクールは、「国内留学」をキャッチコピーとして、2004年に初めて企画された。2004年度と2005年度のワールドスクールは、教育委員会が旅行会社に委託し、コーディネーター役の大学の研究者を旅行会社が依頼交渉をし、プログラムもコーディネーター中心で開発された。第3回となる2006年度から業者委託をやめ、教育委員会が直接コーディネーターを採用し、教育委員会、引率教員、コーディネーター（筆者）の三者が5月以降に5回程度の会議を持ち、内容を検討していった。

2007年度からは、AETの派遣会社も、教育委員会がプロポーザル競技により決定した。プログラム内容は、小学校英語教育の専門家であるコーディネーターを中心に計画されたが、現場の教員の要望をかなり反映した内容となった。「国内留学」ワールドスクールの目的は、「英語を楽しく学ぶ」「外国の文化や習慣にふれる」「協力して集団生活をつくりあげる」の三点である。

2008年度のワールドスクールからは、保護者や児童・生徒の要望にこたえて、中学生向けのプログラムを開発し、中学生20名（第1学年11名、第2学年9名）も参加した。2008年度の小学生参加人数は、137名であった。指導者として、AET20名と派遣会社の日本人マネージャーと外国人スーパーバイザー、JET（Japanese English Teacher: 日本人指導員）として聖学院大学の学生15名、引率教員18名（小学校13名、中学校5名）、コーディネーター、教育委員会から指導主事2名、総勢58名が参加した。

中学生20名のうち、9名（第1学年5名、第2学年4名）は小学生としてワールドスクールに参加している。いずれも6年時のワールドスクールでの体験から、中学生としての参加を強く希望したものである。本稿では、ワールドスクールの小学生対象のプログラムのみ言及し、中学生対象のプログラムの検証については、次稿で扱いたい。

小学生対象プログラムの開発・修正や中学生対象プログラムの開始の例からもわかるように、ワールドスクールの企画・運営面で、行政が教員、保護者、児童・生徒の要望にできる限り応じ、よりよいプログラムにするために動いてきた。

### 4.2 イメージョンを目指したプログラム

上記のように、荒川区は児童・生徒が英語に浸る環境を作るために、十分な準備期間と予算を使い、ワールドスクールを運営している。小学生クラスでは、8～10名のレッシングループに対して、AETとJETを各1名配属している。2008年度に新しい試みとして始めた中学生クラスでは、5名のレッシングループにAET1名と中学校の英語科教員1名が配属された。小学生クラスでは、平均

9名に対して1名のAETが配属されているため、児童一人一人が食事時間、午後のハイキングやショッピング、夜のレクリエーションの時間などでもAETと英語で話す機会が十分に与えられた。初歩的なレベルではあるが、ワールドスクールでは、5日間児童を英語に浸すイマージョンを試みている。この環境の中、児童は少しずつ英語で発話するようになっていくことが報告されている。児童の発話の分析については、第5章で詳しくふれたい。

また、AETとの関わり以外にも、小学生のクラスでは、教員志望の大学生であるJETがグループリーダーとして、全プログラムを通して、グループと行動を共にしており、日本語で質問をしたり、不安なことを相談したりできる学級担任の役割を果たしている。

さらに、バックアップ体制として、引率教員が、生活面の指導や家族と離れて他の小学校の児童らと四泊五日を過ごすという精神面の不安の解消に努めた。荒川区の英語教育当初に指摘された人材配置の問題もワールドスクールでは、完全に解消されている。

### 4.3 場面シラバス設定の授業

ワールドスクールの5日間のうち、英語の授業は2日～4日目の午前中、3レッスンずつ行なわれる。(資料1参照) 授業を担当するAETはローテーションを組んでおり、各グループは9レッスン全て違うAETの授業を受けることになる。2008年度の小学校クラス担当のAETの出身国は、イギリス・アメリカ・カナダ・ニュージーランドの四ヶ国であった。各レッスンは、6年生にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した。(資料2参照) そして、授業で扱った表現を午後の活動でできるだけ使えるような仕掛けをした。

例えば、「Day 1 ③ 遊ぶ約束をしよう」の単元を取り扱った後は、午後のハイキングで自由遊びの時間に、「What shall we do?」「Let's play tag.」などの表現が使える場面を設定した。また、「Day 2 ① 食事をしながら英語を使おう」の授業が終わった後の昼食では、食卓に調味料を並べておき、実際に「Will you pass me the soy sauce?」「Sure. Here you are.」の会話を使えるようにした。ワールドスクールで使用する「荒川区立清里少年自然の家」のような施設では、団体での宿泊の場合、しょう油などの調味料は各自のトレーに配膳する小パックのものが通常使われるのだが、「おしょう油を取ってください。」という表現を実際の場面で使うために、施設側に依頼してこの単元学習後は、しょう油差しや塩、コショウをテーブルに出してもらっている。

英語表現の導入には、資料3のような状況がわかりやすいイラストをA4の絵カードにして提示した。初めから会話表現を紹介するのではなく、「料理を作ろう」の単元では、7枚の絵カードを児童に与え、どのような流れの会話なのかを推測させたり、日本語で7コマ漫画のせりふを考えさせたりした。英文は絵カードの裏面に全て入れてあるが、導入時には、文字情報を与えず、イラストから状況を類推させるようにさせた。100枚ほどの絵カードのイラストは全てオリジナルであり、ワークブックのイラストや名刺サイズのカードなどにも使われている。

## アウトプットを促進させる高学年でのスキット活動

また、9レッスン以外にも、朝の集いで取り上げた中学生とAETによるワンポイント・レッスンは日常生活でよく使える表現として役立った。ワンポイント・レッスンでは、荒川区の英語活動で重視されているノンターゲット・ランゲージ (Non-target language) を中心に紹介した。これは、キーフレーズとしては取り上げられないが、会話の中でつなぎとして使える“Really?” “I see.” “Wow!” “That’s great!”などの表現で、中学生とAETがその表現を使ったスキットを実演した。特に “No way!” という表現が小学生には大人気で、生活の中でありえないようなことに遭遇した時や何かやりたくないことを依頼された時などによく使っていた。

児童は、各レッスンで学んだ英語表現の場面をよく理解した上で、実際に生活の中でとてもうまく使いこなしていた。以下の発話例は、JETの観察記録によるものである。

Day 1 ②, Day 1 ③の表示はレスンプランの単元である。各レッスンの言語材料の詳細については、資料2の一覧に載せた。

### (1) Day 1 ② What’s your favorite food? / What’s your favorite subject?

食事の時などに、スポーツが好きな男子児童が、隣に座ったAETやJETに対して、“What’s your favorite sport?” “I like baseball.”など、しきりに話しかけていた。

音楽好きな女子児童が、“What (kind of) music do you like?”とJETに聞いてきた。

### (2) Day 1 ③ Hurry up. Wait.

2日目のハイキングで、グループごとに歩いている時、列の間があいたら、“Hurry up!”と注意している児童がいた。

### (3) Day 2 ① Please pass me the soy sauce.

食事の時に、“Please pass me the salt.” “Please pass me the pepper.” “Please pass me the tea.” (少年自然の家では、食事の際にテーブルごとに麦茶の入ったやかんが置かれている。)をよく使っていた。

JETに対して冗談で、“Please pass me the pineapple.”と言って、もう少し食べたいデザートなどをねだっていた。

授業中に遠くにあって手が届かないワークブックを取ってもらいたい時に、“Please pass me the book.”と言っていた。

### (4) Day 3 ① Where is the City Hall? I’m lost.

帰りに立ち寄った高速道路のサービスエリアで、男子児童が自分のグループのJETが見つけれず、他のグループのJETに“Where is ○○先生? I’m lost.”と聞いてきた。

その他、JETが日本語で会話をしていても、“No, thank you.” “Me, too.” “Sorry.” “Thank you.”などの短いフレーズをよく発していた。5日間、英語に浸されることにより、児童は適切な状況の中で、自然に英語を発話していた様子がかがわれる。

また、児童が授業で使ったワークブック (筆者自作) には、最後のページにスタンプラリーがあ

り、英語で話しかけたら、先生や友達からスタンプやサインがもらえるという活動を自由時間に行なった。AET, JET, 引率教員はそれぞれ一つずつスタンプを持っており、授業以外でも児童の会話の相手役として貢献した。

## 5. スキット活動

### 5.1 スキットの効用

ワールドスクールでは、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験できるよう、スキット活動を取り入れている。大久保(2003)によると、スキットは以下のように定義される。

寸劇。短いドラマのようなもの。登場人物の性格や、ストーリー展開がはっきりしている  
ので、単純な対話練習よりも演じていて面白い。既成の「スキット」を暗唱して演ずるだけ  
ではなく、学習者の創造性を喚起することができる。(p. 49)

白畑他(1999: p.98)が指摘しているように、外国語学習にドラマ的活動を取り入れることにより「言語を実際の場面で使用する機会を増やし、ひいては言語能力そのものを高めようとする」教授方法は、学習者に実際の場面で言語を使う機会を与えることができる。ドラマ的活動には、対話形式のロール・プレーから英語劇の公演まで幅広い活動がある。中学校・高校レベルのロール・プレーの学習活動では、状況や行動だけが指示されていて対話者が対話を考えながら行なう *cued dialogue* や解決すべき問題や役割だけが与えられていて対話者が即興で展開を考えていく *open-ended scenario* なども用いられるが、小学校段階での限られた語彙・表現力でのドラマ的活動であり、また5日間の短期集中講座での取り組みであるので、ワールドスクールでは、レッスンで導入した会話表現を活用し、児童が場面設定を考えたストーリー性のあるスキットを作る活動を取り入れた。

レッスンで取り上げた9つの場面設定では、スキットの形で表現を導入し、ワークシートなどを活用して表現を発展させた。資料4のような活動の中で、既成のスキットを応用し、自分自身の意思を入れたスキットへと展開させていったのである。こういった活動を通して、児童は実際の場面でも既習表現を応用させて、英語でのコミュニケーションの楽しさを体感していった。小学校高学年では、既成の「ももたろう」や「白雪姫」のような英語劇には抵抗を感じるが多いが、自分のアイディアを盛り込んだスキット発表に対しては、意欲を持って取り組む傾向が強い。

### 5.2 スキット作り

ワールドスクールの最終日には、グラント・フィナーレという成果発表会がある。グループごとに既習表現を駆使したスキットを作り、体育館のステージで発表する。準備期間は、わずか2日間である。三日目の午後にグループ活動の時間が設けられ、JETを中心にグループで話し合い、場面



## アウトプットを促進させる高学年でのスキット活動

設定を決め、スキットの台本を作っていく。グランド・フィナーレは、グループの児童全員参加であり、グループ担当のAETは脇役であれば、登場することも可能であるが、JETは、舞台移動や音響の裏方に徹する。

スキット作りは、松香（1996）の「会話のたしざん」という考え方を参考にした。松香は、やさしい会話文を組み合わせることによって、会話を自分が望むように発展させることができる、きちんとした基礎に創造力を加えることにより、使いこなす会話術を身につけることができる、と言及している。ワールドスクールに参加した児童は、この会話の足し算を、グランド・フィナーレのスキット作りだけでなく、前章で紹介したように生活の中の会話でも実践していることがわかる。

児童は、グランド・フィナーレがワールドスクール5日間の総仕上げであり、グループが協力して一つのものを作り上げるという認識を持ち、素晴らしいチームワークでスキットを作り上げ、200名以上の観客を前にして体育館のステージでの舞台発表を行なった。以下、児童中心で作成したスキット例を挙げる。

(1) 使用したスキット：Day 1 ③遊ぶ約束をしよう Day 3 ①道案内をしよう

Day 3 ②買い物に行こう

みんなでプールに泳ぎに行くことになった。しかし、道に迷ってしまう。道を教えてもらい、プールに向かうが忘れ物をしたことに気づく。お店で水着とビーチボールを買って、プールに到着する。散々な目に会って、やっとたどりついたと思うと、既に閉園時間だった。

(2) 使用したスキット：Day 1 ①体調を英語で伝えよう Day 2 ②料理を作ろう

Day 2 ②買い物に行こう

友達が集まって、今日の夕食は何にしようかと相談する。けんかをしながらもカレーライスを作ることに決まる。しかし冷蔵庫にはお肉がない。そこで、アフリカにワニを捕まえに行くことにする。負傷者が出たものの、なんとかワニの捕獲に成功。家に帰ってワニを煮込んでカレーを作る。みんなでおいしいカレーを食べるが、すぐにみんな揃って腹痛になってしまう。

(2)のカレーを作るスキットについては、もうグループもカレーにワニを入れるというスキットを作っていた。ワニを登場させたのは、レッスンで教材として使ったフォニックス・アルファベットに出てきた“A is an alligator, a, a, a”を児童がとても気に入っていたからである。どのグループも他のグループの友達に受けそうな話題を選んで、楽しみながらスキット作りに取り組んだ。参加児童のアンケートの中にも「ワールドスクールでは、最後にグランド・フィナーレをやったが、友達と楽しく準備できた。」「本番で力を発揮できるよう練習をした。」「力を合わせてやることができ、とても心に残りました。」というような感想があった。限られた時間内での準備であったが、各グループ工夫を凝らした発表ができた。作成したスキット例は資料5に添付した。

## 6. まとめと今後の課題

新学習指導要領の「第4章 外国語活動」の目標の項目では、「外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り」「コミュニケーション能力の素地を養う」と述べられている。ワールドスクールでは、新学習指導要領が目指す態度の育成が具現化されていると言えるだろう。また、AETやJETとの関わりの中で、児童は英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、中学校以降に育てていきたい実践的なコミュニケーションの基礎が作られる5日間となっている。

ワールドスクールは、荒川区の教育に対する強い思い入れの賜物であり、英語教育特区としての特別な措置があって実現するプログラムである。しかしながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成のために、もっと身近に取り組めることもある。一例として、筆者が指導する本学児童学科の「児童英語教材研究」での学外授業を紹介したい。小学校教員免許取得希望者対象の授業の中で、筆者が授業をしているさいたま市の公立小学校の4年生のクラスを見学させている。この授業では、児童が3・4学年で学習した会話表現を使って、ゲストと会話をする活動を行っている。30人のクラスに対して、25名の大学生が会話の相手をするので、既習事項を実際に使ってみる絶好のチャンスとなる。

また、戸田市立新曾小学校の実践では、学区内にある埼玉県立南稜高校の外国語科の生徒が、SELHi (Super English Language High School) の取り組みの一環として、高学年の授業に参加している。高校生が会話のパートナーとして高学年の英語活動を支援しており、充実したコミュニケーション活動を展開している。

ワールドスクールの今後の課題として、参加した6年生の英語学習への動機付けが中学校段階においても持続しているかを検証していきたい。荒川区では、小中一貫英語教育の推進校を指定し、小中合同で実践研究も進めている。ワールドスクール参加者の長期的な追跡調査は、小中連携の取り組みの参考となるであろう。

課題の二点目は、2008年度試行的に企画された中学生対象のワールドスクールのプログラム検証である。小学生のプログラムを発展させ、中学校レベルの知的好奇心を満たす内容を目指して開発したプログラムであるが、来年度以降小中連携をより意識したものに修正していく必要があるだろう。

本稿では、荒川区ワールドスクールのプログラム内容及び成果を報告することにより、コミュニケーションに対する態度の育成について考察したが、今後必修化される外国語(英語)活動の指導法や教材開発の研究において、本実践が先行実践の事例としてなんらかの示唆を与えるものとなることを期待している。

### 注

1. 荒川区では、2007年度より外国人講師を英語母語話者に限定して採用するという意図から、外国人講師の名称をNEA (Native English Assistant) としている。ワールドスクールでは2004年の初回からAET (Assistant English Teacher) という名称を使っているが、採用に関しては英語母語話者を条件としている。
2. 2008年度は、2008年9月現在、第17回認定(2008年7月9日)分までが発表されている。また、58件の英語教育特区の中には、小学校英語関係の教育特区として異文化理解教育特区や国際教育特区も含めた。

### 参考文献

- 荒川区教育委員会『荒川区小学校英語科指導指針』, 荒川区, 2003
- 市村由喜子「えっー。担任の先生が英語を教えるんですか」『新英語教育』, 三友社出版, 9月号, 2004, pp.18-20
- 大久保洋子監修『児童英語キーワードハンドブック』, ピアソン・エデュケーション, 2003
- 佐藤幸雄「荒川の小学校英語教育」『教育』, 国土社, 5月号, 2008, pp.102-107
- 首相官邸会議等一覧「認定された構造改革特別区域計画について(第1回～第17回)」  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kouzou2/ninteisinsei.html>, 2008
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典』, 大修館書店, 1999
- 瀧口優『「特区」に見る小学校英語』, 三友社出版, 2006
- 戸田市立新曾小学校『研究発表資料』, 戸田市立新曾小学校, 2004
- 内閣官房構造改革特区推進室「構造改革特区の第一次提案, 第二次提案で実現する特区の例」  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kouzou2/sankou/rei.pdf>, 2004
- 松香洋子『ゼロから始める英会話 Hi-Bye English』, The Japan Times, 1996
- 松川禮子『明日の小学校英語教育を拓く』, アプリコット, 2004
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』, 東京書籍, 1999
- 文部科学省『小学校英語活動実践の手引』, 開隆堂, 2001
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動』, 東洋館出版社, 2008
- 文部科学省「小学校英語活動実施状況調査(平成19年度)」の主な結果概要(小学校)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/20/03/08031920/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/03/08031920/001.htm), 2008
- 文部科学省「小学校における英語活動等国際理解活動 拠点校一覧」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gaikokugo/kyoten/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gaikokugo/kyoten/index.htm), 2008
- 文部科学省「地域の特徴等を生かした特別の教育課程を編成する学校の取り組み」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gaikokugo/jouhou/tokubetsu.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gaikokugo/jouhou/tokubetsu.htm), 2008
- 安彦忠彦監修 大城賢・直山木綿子編著『小学校学習指導要領の解説と展開』, 教育出版, 2008

資料1 〈ワールドスクール スケジュール一覧〉

スケジュール概要

	8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)					
6:30		起床・洗面	起床・洗面	起床・洗面	起床・洗面					
7:00		朝の集い・朝食準備	朝の集い・朝食準備	朝の集い・朝食準備	朝の集い・朝食準備					
7:30		朝食	朝食	朝食	朝食					
8:00	区役所前のバスに乗車 ※集合したら出発									
8:30		心構え	キャンプファイヤー準備	キャンプファイヤー準備	荷物整理					
9:00	(バスレク)	レッスン1	レッスン4	レッスン7	レッスン仕上げ1					
9:45		レッスン2	レッスン5	レッスン8	レッスン仕上げ2					
9:55										
10:40		レッスン3	レッスン6	レッスン9	部屋整理					
10:50	宿舎到着	宿舎出発(清泉寮へ)	昼食準備 昼食	昼食準備 昼食	昼食(食堂)					
11:35	昼食(食堂)				清泉寮 ・昼食 ・ソフトクリーム ・ミニレクリエーション ・近辺散策	・レッスン仕上げの練習 ・清里駅周辺 ※グループ毎に実施	・レッスン仕上げの練習	閉校式		
12:00		体育館にて閉校式 ・諸注意、スタッフ紹介	宿舎出発	清泉寮				清泉寮	閉校式	
12:30	各レッスン班に別れて、 英語で自己紹介 ・避難訓練				清泉寮	清泉寮	閉校式			
1:00							清泉寮		清泉寮	閉校式
1:30										清泉寮
2:00		清泉寮	清泉寮	閉校式						
2:30	清泉寮			清泉寮	閉校式					
3:00					清泉寮	清泉寮	閉校式			
3:30							入浴準備	入浴準備	入浴準備	入浴準備
4:00		入浴	入浴				入浴	入浴	区役所前到着予定 解散式	
4:30	夕食準備			夕食準備					夕食準備	夕食準備
5:00					夕食	夕食				
5:30	夕食	夕食	夕食	夕食			夕食			
6:00					夕食	夕食		夕食	夕食	夕食
6:30	夕食	夕食	夕食	夕食			夕食			
7:00					・スポーツ ・トランプ ・各国の遊び	・スポーツ ・トランプ ・各国の遊び		・スポーツ ・トランプ ・各国の遊び	キャンプファイヤー	キャンプファイヤー
7:30	※レッスン班毎に実施	※レッスン班毎に実施	※レッスン班に実施	キャンプファイヤー						
8:00					班会議	班会議	班会議	班会議	班会議	
8:15	班長会・就寝準備	班長会・就寝準備	班長会・就寝準備	班長会						
8:30	小学生就寝 中学生自主学習	小学生就寝 中学生自主学習	小学生就寝 中学生自主学習	小学生就寝 中学生自主学習						
9:00	中学生就寝	中学生就寝	中学生就寝	中学生就寝						
10:00										

資料 2 〈平成20年ワールドスクールレッスンプラン〉

平成20年度荒川区ワールドスクールレッスンプラン

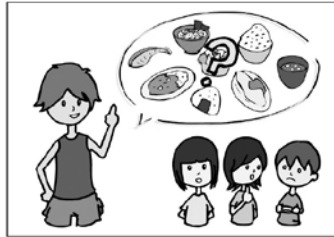
<p><b>Day 1 ①</b> 今日の体調を英語で伝えよう Hi, how are you? I'm great. Oh, you look tired. What's the matter? I have a headache. That's too bad. You should see a school nurse. All right. Take care. Thank you.</p>	<p><b>Day 2 ①</b> 食事をしながら英語を使おう Are you hungry? Yes, I am. Do you like fish? Yes, I do. How about you? Me, too. Please pass me the soy sauce. Sure. Here you are. Do you want some salad? No, thank you.</p>	<p><b>Day 3 ①</b> 道案内をしよう Excuse me. Where is the City Hall? I'm lost. Go straight. Turn left at this corner. I see. Go three blocks. It's on your right. Thank you very much. You're welcome.</p>
<p><b>Day 1 ②</b> 友達にインタビューしよう Where do you live? I live in Nishi Nippori. Do you have any brothers? Yes, I do. I have one brother. What's your favorite food? I like ice cream. What's your favorite subject? I like P.E.</p>	<p><b>Day 2 ②</b> 料理を作ろう What shall we have for dinner? Let's make curry and rice. That sounds great. What do we need for curry and rice? Well, we need beef, potatoes, onions and carrots. Good! Let's go shopping. OK. Let's go to Yokado!</p>	<p><b>Day 3 ②</b> 買い物をしよう May I help you? I'd like a cheese burger and French fries. Anything to drink? Small coke, please. For here or to go? For here. Three hundred and ninety yen, please. Here you are. Thank you. Have a good day!</p>
<p><b>Day 1 ③</b> 遊ぶ約束をしよう What shall we do? Let's play dodge ball. That's a good idea. / Sorry, I can't. Let's go to the gym. Please wait! Hurry up! It's my turn. Go ahead. You are good!</p>	<p><b>Day 2 ③</b> 夏休みの計画を話そう Hey, what do you have in your bag? I have a beach ball. Where are you going? I'm going to the swimming pool. Have fun! Thank you. Bye!</p>	<p><b>Day 3 ③</b> 自分のことをもっと話そう My name is Arisa. My birthday is August 25th. I have one brother and one sister. I have a dog. I like chocolate and cake. My favorite subject is English. I want to be a teacher in the future. Thank you for listening.</p>

Warm-up:  
AETの国紹介(5分)  
フォニックスアリアアベット(5分)

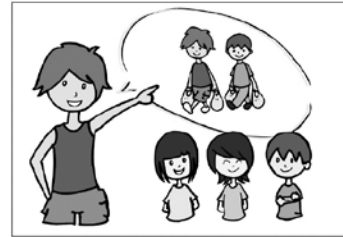
資料3 〈絵カードの例〉

Day2■02

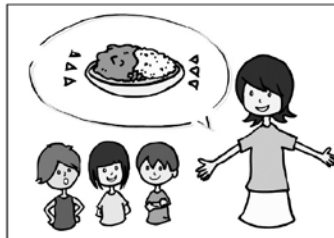
料理を作ろう



What shall we have for dinner?



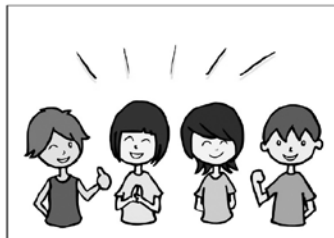
Good! Let's go shopping.



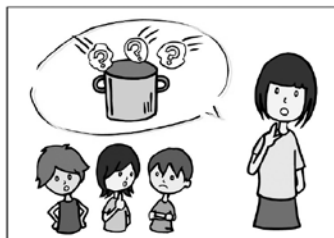
Let's make curry and rice.



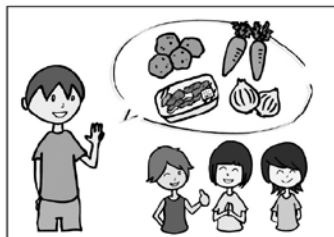
OK. Let's go to Yokado.



That sounds great.



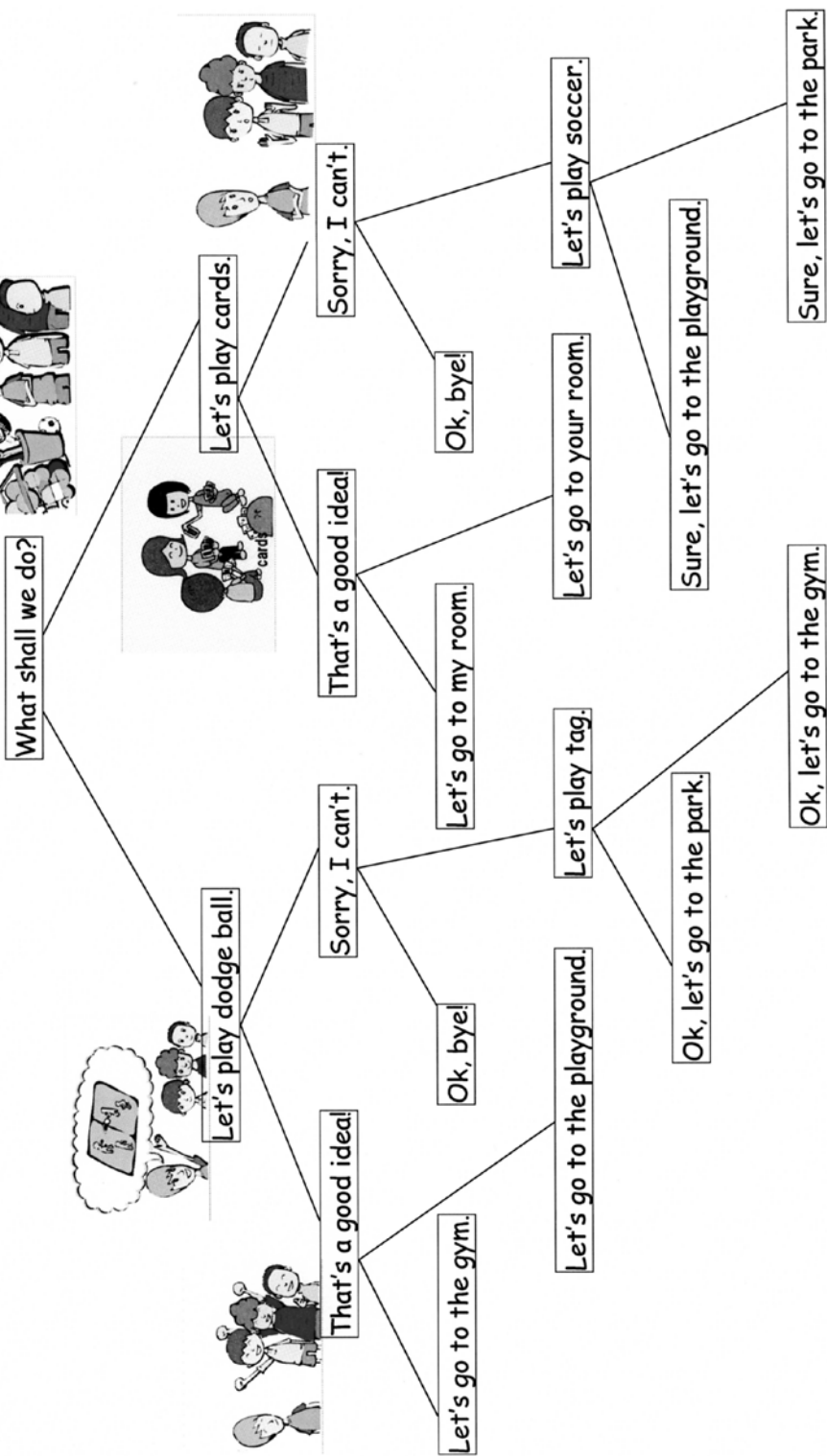
What do we need for curry and rice?



Well, We need beef, potatoes, onions and carrots.

# What shall we do today?

## 遊ぶ約束をしよう!



☆ペアになって遊ぶ約束をしよう。最後まで線をたどって行ったら、どこでどんな遊びをやるか発表しよう。☆

資料5 〈スキット作成の例〉

Let's Make Curry and Rice!

A: What shall we have for dinner?

B: Let's make spaghetti. C: Let's make hamburgers. All: Let's make...

H: Let's make curry and rice! All: No! No! No!

H: (目薬を差して、泣く真似をしながら) Let's make curry and rice.

All: OK. OK. Don't cry. C: What do we need for curry and rice?

D: We need beef, potatoes, onions and carrots.

(冷蔵庫を開けながら) Where is the beef?

A: Let's go shopping. E: (財布の中身を見て) We have no money. All: Oh, no!

B: Let's go to Africa! All: Let's go to Africa! (全員帽子をかぶる)

F: Let's go hunting. All: Let's go hunting. (「猛獣狩りに行こう」のリズムで)

F: I have a spear. All: I have a spear.

F: I have a gun. All: I have a gun.

F: Look! All: Look! F: Look! All: Look!

F: Alligator! All: Alligator!

B: How about an alligator? Shall we catch it?

D: Who is going to catch it? All: Me! Me! Me! E: Me!

All: Please. (最後に手を挙げた男子児童に対して、どうぞというポーズをしながら)

E: (ワニに近づき) I got it! All: Wow! E: Ouch! I'm hurt. All: Are you OK?

A: Phone! Please help us! AET: (救急車の役で登場) What's the matter?

E: I'm hurt. AET: OK. (Eを抱き上げて、退場)

G: Let's go home! All: Let's go home! (Eがなべを持って、舞台中央に登場)

All: I'm home! E: Hi! All: Wow! Are you OK? E: OK!

D: Let's make curry and rice! All: Yes!

E: Potatoes. All: Potatoes. E: Onions. All: Onions. E: Carrots. All: Carrots.

F: An alligator. (なべをかき混ぜながら) A: Finished! All: Let's eat!

B: I have a stomachache. All: I have a stomachache. (Cだけがカレーを食べ続ける)

C: Why? It's delicious. You should see a doctor. Doctor! All: Doctor!

(JETが"Good Kids, Don't Copy!"『よいこはマネしないでね』の紙を持って登場)